

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名：阿保孝志朗

所属：青森県立青森聾学校

記録日：2024年2月26日

キーワード： 外国語活動 コミュニケーション

【対象児の情報】

- ・ 学年 高等部2年
- ・ 障害名 聴覚障害 知的障害

【活動目的】

・ 当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

- ① シンボルとテキスト、音声を活用した外国語活動に取り組む
- ② チャットアプリを活用してテキスト、写真等でコミュニケーションをすることができる。
- ③ 楽しく体を動かし、体力の向上を図る。
- ④ 睡眠の質や体調を把握し、快適に生活することができる。

・ 実施期間 2023年4月～2024年2月

・ 実施者 阿保 孝志朗

・ 実施者と対象児の関係 学部付き職員

【実践研究活動の内容と対象児の変化】

・ 対象児の事前の状況

- ・ 重複学級所属
- ・ 人工内耳、補聴器装用
- ・ 寄宿舎生
- ・ 発音が不明瞭で、手話や指文字を使ってコミュニケーションをしているが分かりづらい。
- ・ 人と関わるのが好きである。
- ・ ひらがなは読んだり、時間がかかるが書いたりすることができる。50音キーボードで入力することができる。
- ・ 具体物を使って一桁と一桁の足し算引き算ができる。
- ・ アルファベットが分かり、時間がかかるがアルファベットを視写することができる。
- ・ 英語の簡単な挨拶、数唱（1～10）は発音することができるが想起して書くことは難しい。
- ・ 取り組んだことのある iPad の操作を覚えている。
- ・ 手すりに捕まりながら階段を登ることができる。
- ・ 全体的に筋力が弱く、動作がゆったりしている。
- ・ 週末は14時間くらい睡眠をとっており、平日はいつも眠いと言っている。

・ 活動の具体的内容

- ① シンボルとテキスト、音声を活用した外国語活動に取り組む



・ドロップタップを活用し、日常の様子や自分の好きなものなどの英単語を調べて単語カードを作成することで、楽しみながら外国語活動を行う。正しい英語ではなく、ALTになんとか伝われば良いというところを目指し、学習を進めた。

② チャットアプリを活用してテキスト、写真等でコミュニケーションをすることができる。

・教師と写真やシンボル、テキスト等でチャットを行い、自分の気持ちを表出することができるようになる。

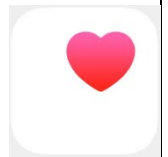


③ 楽しく体を動かし、体力の向上を図る。

・AR や VR で楽しく安全に体を動かす。

④ 睡眠の質や体調を把握し、快適に生活することができる。

・Apple Watch で身体活動を測定し、睡眠の質や運動量を把握し、無理なく快適に過ごすことができるようにしたり、教師が活動量を調節したりすることができる。



・対象児の事後の変化

①について

・昨年度に引き続き、英単語やアルファベットに親しむことをねらいに実施した。自分で撮った写真やドロップスのシンボルの日本語表示名を iPad の標準の翻訳アプリで翻訳し、英語表記を見ながら Skitch で英語表記とひらがな表記で入力し、絵カードを作成した。ネイティブの発音に触れさせなかったため、翻訳アプリの音声読み上げしたものを本生徒の DropTap で録音し活用した。作成した絵カードを用いて英文法の並べ方を覚えて、ALT との授業で挨拶や自己紹介、週末の様子の紹介をすることができた。



②について

・写真やシンボル、テキスト等を活用してコミュニケーションできることをねらいに、本校で活用している Microsoft Teams のチャット機能を用いたコミュニケーションを実施した。実践者に対して、聞かれた質問に写真や絵文字、簡単な文章で答えることができた。また、自宅から産業現場等における実習の実習日誌や帰宅の連絡をすることができるようになった。

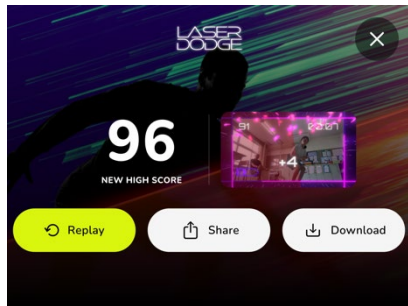


- ・好きな教員（自分が伝えたい相手）には、担任等の許可を得てから自分が書いた絵やメッセージを送ることが見られた。
- ・週末の様子の写真や撮影した自分の好きなものの写真を活用し、えにつきで表現することができた。家族が撮影した写真を活用し長期休暇の様子もえにつきで表現することができた。
- ・iPhone でフリック入力をする事ができるが、iPad の五十音キーボードを好んで使っていた。
- ・時間はかかるが自分でじっくり考えて返信することができた。

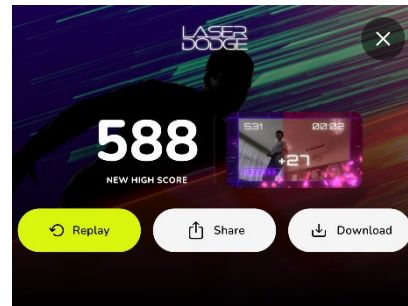


③について

- ・ **Active Arcade** を活用して体力の向上を図った。週1回20分程度楽しみながら運動することができた。慣れてくると予測して取り組む様子やスコアの向上が見られ素早くより正確に動けるようになった。



6月



12月

④について

- ・ 行事等が落ち着いてきた6月の下旬頃から睡眠時に **Apple Watch** を装着して睡眠の様子を計測した。週末は家庭でも実施してもらった。当初の予定では24時間装着してもらう予定であったが、気温と湿度が高かったことで **Apple Watch** を装着した際に不快だったようで就寝前だけの活用になった。夏休みも家庭で実施してもらったが、起床後に外してしまうため、2度寝や昼寝など1日の観察はできなかった。気温が下がってからも就寝中での活用にとどまった。
- ・ 登校後に睡眠時間や覚醒時間等でその日の体調が推察でき体調や機嫌を予測して作業学習の作業量等を事前に配慮することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

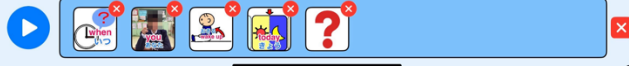

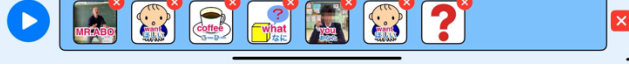
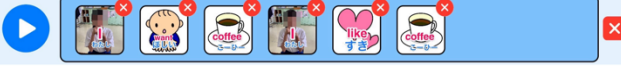
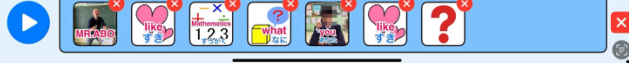

- ・ 主観的気づき

①視覚・聴覚を活用した学習が学習の理解（シンボルでの英文作成）に有効だったのではないかと。

新しい単語を **DropTap** で作成した後、本生徒が自分で単語を選択し英文で伝えることが増え、本生徒は一度学習した並べ替えを理解していることが確認できた。iPad を活用せずに英文の口話（I have runnynose.）で伝えることがあった。ALT との学習でも自分で **DropTap** を活用して自己紹介をすることができた。伝わった後は満面の笑みだった。



DropTap を活用したやり取りの様子

教師の質問	生徒の回答
 <p>When you wake up ?</p>	 <p>I wake up 6 o'clock today morning.</p>
 <p>Mr.Abo want coffee. What you want ?</p>	 <p>I want coffee. I like coffee.</p>
 <p>Mr.Abo like Math. What you like ?</p>	 <p>I like Molal and National Language.</p>

②自分でできる、相手に伝わる方法でのコミュニケーションが伝えたい気持ちを高めたのではないか。

写真やテキストを活用することで時間はかかるが、ほとんど一人で質問に対して答えることができるようになってきている。自分から積極的に伝えることはまだ少ないが、自分の好きな教師に対しては自分から発信するようになった。右の写真はメッセージを送ったが返事が来ないので催促している様子である。

自分で写真を撮影することはあまりないが、自分から写真を見せて話しかける行動が見られるようになった。

③デジタルツールが本人の言葉を補うことができるのではないか。

今年度と取り組みを通して対象生徒が、自分から発信するコミュニケーションツールとしての活用までには至らなかったが、写真やデータなどを本生徒と関わる人（保護者、教員、寄宿舍職員、）が活用することで本生徒が説明しきれないことや伝えきれないことを伝えられるということを実感した。本生徒は来年度で卒業する予定なのでデジタルの連絡帳としても活用を進めていきたい。

